

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18202014

研究課題名（和文）北東アジアにおける「記憶」と歴史認識に関する総合的研究

研究課題名（英文） Study on the memory and historical understanding in NE Asia.

研究代表者

氏名（ローマ字）：三宅 明正（MIYAKE AKIMASA）

所属機関・部局・職：千葉大学・大学院人文社会科学研究所・教授

研究者番号：30174139

研究成果の概要（和文）：北東アジアでは、異なった「歴史」の記憶と、その集合的記憶への固執が、今なお融和を妨げている。本研究は、この打開に向けて、過去の「事実」自体を可能な限り合理的な手続きに基づいて復元する必要性を強調するとともに、北東アジア各地域における集合的記憶＝「歴史」がいかにか生成・継承されてきたのかを、人文諸学の協力による学際的共同研究に基づき総合的に考察した。包括的な成果は冊子体で印刷し公表した。

研究成果の概要（英文）： There are some conflicts of the history issue in Northeast Asia. We did an interdisciplinary joint research for achieve the solution about that. Our research clarified the following. 1) Comparing of concrete historical facts in Northeast Asia. 2) Clarification of process how memory became history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	10,000,000	3,000,000	13,000,000
2007年度	10,900,000	3,270,000	14,170,000
2008年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2009年度	7,400,000	2,220,000	9,620,000
年度			
総計	35,300,000	10,590,000	45,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：グローバル化・比較歴史学・ナショナリズム

1. 研究開始当初の背景

北東アジアでは、異なった「歴史」の記憶と、その集合的記憶への固執が、今なお融和を妨げている。近代における日本の軍国主義的ありようが、その根本原因である

ことは論を待たない。そのことをふまえた上で、今日のさまざまな困難を克服していくためにどのようなことが考えられるのか、私たちはそれを人文諸学の学際的研究によって行おうと試みた。

2. 研究の目的

上述した課題に迫るためには、第一に、過去の「事実」自体を可能な限り合理的な手続きに基づいて復元する必要があることは勿論であるが、第二に、集合的記憶が時間軸の中で生成・継承され、ある社会集団の正統なる「歴史」として認知されていくプロセス自体について、実証的、並びに理論的解明が求められねばならない。言うまでもなく、記憶は常に現在の必要性に照らしつつ構築されていく一面を持つからである。そして、記憶が社会の中でいかに構築され維持されてきたのかを探る作業は、相容れぬかに見える記憶の抗争を解き、共生社会を実現していくための基盤的条件となる。本研究は、まさにかかる同時代的状況を意識しつつ、北東アジア各地域における集合的記憶＝「歴史」がいかに生成・継承されてきたのかを、歴史学・社会学・民族学・文学、それぞれの分野の協力による学際的共同研究に基づき総合的に考察することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 本研究の特色である学際性を生かしながらしかも十分に緊密な共同研究を実現すべく、全体を、「ナショナリズムと歴史の記憶」(A班)、「生活基層世界と口承の歴史」(B班)、「集合的記憶の生成に関する比較史的、理論的考察」(C班)、「表象(イメージ)と文字(出版)による記憶の継承」(D班)の4つの研究班に組織するとともに、そのうち研究代表者が所属するA班を統括研究班として、実際の作業に取り組んだ。統括研究班は、それぞれの研究班の研究進展状況を把握するとともに、全体研究会の企画・立案・実施を行い、各研究班における研究成果を有機的に統合する核心として活動した。ほぼ同じ研究組織によってこれまで「歴史認識」の問題をめぐって行われてきた共同研究について改めて統括した上で、2006-09年度の各人の課題を確認し、各班で議論した上で、これを研究メンバー全員で共有すべく、ほぼ隔月の緊密な研究打ち合わせと、年間6、7回程度、外部講師を招いての公開研究会を開催した。公開研究会については、本研究のホームページに詳細が掲載されている。ウェブサイトは以下の通り。

<http://www.history.l.chiba-u.jp/~northeastasia/index.html>

(2) 本研究の特色の一つは、北東アジア諸地域における現地調査を並行することである。本研究は、2006年度から2009年

度にかけて、史料調査、歴史認識に関する現地調査を日本国内各地、日本国外(アメリカ、韓国、中国、台湾ほか)で実施し、さらに2009年度には研究成果の集約をかねた国際シンポジウムを計画し実行した。

4. 研究成果

包括的な研究成果は、本研究の「研究成果報告書」として別途印刷して公表した。その報告書は、上述した国際シンポジウムの記録と、研究代表者、研究分担社、連携研究者および研究協力者の個別の論文とから構成されている。

シンポジウムは、鄭在貞(韓国・ソウル市立大学)、孫歌(中国・社会科学院)、李卓(中国・南開大学)、南相九(韓国・東北亜歴史財団)、Victor Koschmann(アメリカ・コーネル大学)の各氏を招いて開催され、「北東アジア史」ないし「東アジア史」という把握の仕方がもつ積極的な面と、それにとまなう問題点の両面を集中的に討議した。

あわせて報告書に収録した個別の論文は、①このシンポジウムに直接関わって北東アジア・東アジアという地域概念を検討した論稿、②中国に視座を据えて集合的記憶が歴史となるプロセスを具体的な場で追究した論稿、③記憶が歴史として認知されるメカニズムを解明しようとした論稿の、3種に大別される。

これら全体を通して、本研究の、全体としての成果として指摘できるのは、北東アジアにおける地域理解の歴史性の意義を明らかにした点である。一般に、地域史は、その概念と実態との両面から接近されることが多いが、地域理解の歴史性を踏まえた検討はかならずしも十分ではない。本研究はそのことの意義を明確にした。これを前提にして、「北東アジア史」をどういう歴史的文脈で構想するかは、次の大きな課題となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計42件)

- ① 菅原憲二、明治3年(1870)宇和島藩浦方における打毀し史料、人文研究(千葉大学)、査読無、39、2010、203-258
- ② 荻原眞子・古原敏弘、アイヌのクマ送り関係資料概要、北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要、査読無、2010、117-142

- ③ 中川裕、アイヌ英雄叙事詩成立過程の時間層、口承文芸研究、査読有、32、2009、29-42
- ④ 趙景達、政治文化の変容と民衆運動、歴史学研究、査読有、859、2009、2-12
- ⑤ 橋本雄一、王秋蚩と爵青の応答から考える植民地の「現実」・空間・時間、中国東北文化研究の広場、査読無、2、2009、115-135
- ⑥ 池田忍、富山妙子と戦後「美術」と「日本」の境界、超域的日本文化研究、査読無、1、2009、84-97
- ⑦ 三宅晶子、学校に押し寄せる「道徳」教育の検証と転換への展望、生活教育、査読無、732、2009、42-52
- ⑧ 中川裕、アイヌの歌謡、國學院雑誌、査読無、110-11、2009、320-333
- ⑨ 中川裕、アイヌ語の地域差、国文学解釈と鑑賞、査読無、2010-1、2009、56-60
- ⑩ 三浦佑之、風土記の魅力、國文學、査読無、54-7、2009、6-14
- ⑪ 三宅明正、諸外国の日本同時代史研究、同時代史研究、査読有、1、2008、14-21
- ⑫ 見城悌治、近代日本の「義士／義民」表象と朝鮮観、朝鮮史研究会論文集、査読有、45、2007、91-116
- ⑬ 片桐雅隆、シンボリック相互行為論から認知社会学へ、社会学研究、査読有、82、2007、7-30
- ⑭ 山田賢、清末湖南の反キリスト教運動と「正しさ」の系譜、アジア民衆史研究、査読有、11、2006、22-33
- ⑮ 趙景達、アジア史研究から見た丸山政治思想史学、未来、査読無、479、2006、15-20

[学会発表] (計9件)

- ① 橋本雄一、五四初期の大連における傅立魚、「第5回 植民地主義と文学—「満洲国」と東アジアの文学」(韓国民族文学研究所主催)、2009. 9.26、韓国・大田
- ② NAKAGAWA Hiroshi, The Heroic Epic of the Ainu, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2009. 7.28, Kuming, China
- ③ MIYAKE, Akimasa, Rewriting History in a Textbook in Contemporary Japan. Conference „Shifting Re-Creations of European and Asian ‚Others‘ in East Asian schoolbooks“, March 17, 2009, Heidelberg, Germany

[図書] (計15件)

- ① 三宅明正編、千葉大学人文社会科学研究所、北東アジアにおける「記憶」と歴史認識に関する総合的研究、2010年、136
- ② 三浦佑之、角川学芸出版、日本靈異記の世界、2010年、252
- ③ 三浦佑之、日本放送出版協会、古事記への招待、2009年、190
- ④ 菅原憲二、千葉大学文学部、近世京都御倉町文書史料集(一)(二)、2008-2009年、114
- ⑤ 荻原真子編、千葉大学文学部、ブラーヴァ村の遺産("Bulavinskoe nasledie")、2007年、114
- ⑥ 三浦佑之、吉川弘文館、古事記のひみつ、2007年、220
- ⑦ 三浦佑之、文藝春秋、古事記を旅する、2007年、320
- ⑧ 渋谷望、世界思想社、「冷戦下の社会科学と社会学——近代化論を中心に」(田中耕一・荻野昌弘編『社会調査と権力——<社会的なもの>の危機と社会学』)、2007年、161-181
- ⑨ 片桐雅隆、世界思想社、認知社会学の構想、2006年、246
- ⑩ 三宅明正、慶應義塾大学出版会、「近代の韓国・朝鮮はどう記されてきたか」(宮嶋博史・金容徳編『近代交流史と相互認識』Ⅲ)、2006年、321-357

[その他]

ホームページ等

本研究で開設したウェブサイトは
<http://www.history.l.chiba-u.jp/~northeastasia/index.html>
 である

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三宅 明正 (MIYAKE AKIMASA)
 千葉大学・大学院人文社会科学研究所・教授
 研究者番号：30174139

(2) 研究分担者

中川 裕 (NAKAGAWA HIROSHI)
 千葉大学・大学院人文社会科学研究所・教授
 研究者番号：50172276
 菅原 憲二 (SUGAHARA KENJI) (2007年度から)
 千葉大学・文学部・教授
 研究者番号：00162850
 古勝 隆一 (KOKACHI RYUICHI) (2006年度のみ)
 京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：40303903

(3)連携研究者

趙 景達(CHO GHONDARU)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：70188499

見城 悌治(KENJO TEIJI)

千葉大学・国際教育センター・准教授

研究者番号：10282493

安田 浩(YASUDA HIROSHI)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：40114219

山田 賢(YAMADA MASARU)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：90230482

桜井 厚(SAKURAI ATSUSHI)

立教大学・社会学部・教授

研究者番号：80153948

米村 千代(YONEMURA CHIYO)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：90262063

荻原 真子(OGIWARA SHINKO)

帝京平成大学・現代ライフ学部・教授

研究者番号：00129074

三浦 佑之(MIURA SUKEYUKI)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：90104091

小沢 弘明(OZAWA HIROAKI)

千葉大学・普遍教育センター・教授

研究者番号：20211823

片桐 雅隆(KATAGIRI MASATAKA)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：90117973

渋谷 望(SHIBUYA NOZOMU)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：30277800

池田 忍(IKEDA SHINOBU)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：90272286

橋本 雄一(HASHIMOTO YUICHI)

千葉大学・言語教育センター・准教授

研究者番号：30305403

三宅 晶子(MIYAKE AKIKO)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：50157608

高木 元(TAKAGI GEN)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：00226747